

Comment

長島全島から出品されるようになって2回目の造形美術展とあって、従来の表現から一歩新しい方向へ進んだ作品が多く見られた。

地域の素材を手慣れた加工技術で、似たようなものを繰り返しつつってきた前回までの出品作と異なって、今回は新しいテーマに挑んだ作品がでてきていた。それもテレビやマンガから借り物の題材ではなく、地域の生活環境から生まれてくる主題に転換されたものがでてきていた。

本来、美術造形の表現は、今生きている人間の存在を中心にして創作されるものと考えれば、この長島町の造形美術展も絶えずその創造性が求められるのは当然のことである。

公民館やPTAなどの活動の一つとして造形物をつくり、造形美術展を開くという非常に珍しい催事であるだけに、今後ともより新しい、そして素晴らしい作品が生まれてくることを強く期待したい。それすなわち長島町の人々のエネルギーであり、誇りになるものと信じる。



第13回ながしま造形美術展
審査委員長 楠畑 裕也



↑テープカットで造形美術展が幕開け



←出水中央高校吹奏楽部がオープニングを盛り上げる



←作品の完成を祝い餅まき(矢堂)

→長島町商工会の抽選券付共通商品券の抽選を、造形美術展会場で実施。景品の引き換えは平成21年12月15日まで

